

DAISHI HOKUETSU Financial Group, Inc.
Mini Disclosure 2019.3



DAISHI HOKUETSU
Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

ミニディスクロージャー誌

2019年3月期 営業のご報告



第一銀行



ホクゲン

北越銀行

Contents

- 01 – プロフィール／ごあいさつ
- 03 – 中期経営計画
- 05 – トピックス
- 06 – ESGへの取り組みとSDGsへの貢献
 - 07 E (環境)
 - 09 S (地域社会)
 - 15 G (ガバナンス)
- 17 – 業績ハイライト
- 19 – 預金・貸出金・健全性の状況 (単体)
- 21 – 第四北越フィナンシャルグループの状況・役員
- 22 – 株主の皆さまへ

第四北越フィナンシャルグループ プロフィール



本店所在地 長岡市大手通二丁目 2 番地 14
 本社所在地 新潟市中央区東堀前通七番町 1071 番地 1
 設立 2018 年 (平成 30 年) 10 月 1 日
 資本金 300 億円
 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード: 7327)
 (2019 年 3 月 31 日現在)

第四銀行 プロフィール



本店所在地 新潟市中央区東堀前通七番町 1071 番地 1
 創立 1873 年 (明治 6 年) 11 月 2 日
 総資産 5 兆 9,761 億円
 資本金 327 億円
 従業員数 2,180 人
 (出向者を含めた従業員数 2,238 人)
 店舗数 122 店舗・駐在員事務所 1 ヵ所 (上海)
 新潟県内 113 店舗
 (うち出張所 5 ヵ所、仮想店舗 3 店舗)
 新潟県外 9 店舗
 (2019 年 3 月 31 日現在)

北越銀行 プロフィール



本店所在地 長岡市大手通二丁目 2 番地 14
 創業 1878 年 (明治 11 年) 12 月 20 日
 総資産 2 兆 9,414 億円
 資本金 245 億円
 従業員数 1,370 人
 (出向者を含めた従業員数 1,415 人)
 店舗数 84 店舗
 新潟県内 79 店舗
 新潟県外 5 店舗
 (2019 年 3 月 31 日現在)



代表取締役会長

佐藤勝弥

代表取締役社長

並木富士雄

第四北越フィナンシャルグループの経営理念

私たちは

信頼される金融グループとして

みなさまの期待に応えるサービスを提供し
地域社会の発展に貢献し続けます

変化に果敢に挑戦し
新たな価値を創造します

行動の規範
(プリンシプル)

使命
(ミッション)

あるべき姿・方向性
(ビジョン)

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第四銀行と北越銀行は、2018年10月1日に経営統合を行い、両行の完全親会社である「株式会社 第四北越フィナンシャルグループ」を設立致しました。当社の設立に際しましては、皆さま方よりひとかたならぬご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、本経営統合によって、経営理念である「私たちは 信頼される金融グループとして みなさまの期待に応えるサービスを提供し 地域社会の発展に貢献し 続けます 変化に果敢に挑戦し 新たな価値を創造します」を実践し、地域金融機関の「使命・役割」である「金融・情報仲介機能」を永続的に発揮してまいり所存です。

地域への貢献に向けた重要施策として、本年4月1日に地域商社「株式会社 ブリッジにいがた」を設立し、事業をスタートさせました。両行が持つ豊富な情報を有機的につなげ、企業の販路拡大、ビジネスマッチングのほか、新潟県の恵まれた農林水産資源や観光資源等の国内外への発信や、県内企業のIT技術の利活用等による「生産性向上」へのご支援にも取り組んでまいります。また5月24日には、お客さまの人材に関する課題解決をご支援するため、人材紹介会社「第四北越キャリアブリッジ 株式会社」を設立し、10月からの業務開始に向け準備を進めています。両社との連携によって当社グループの事業領域を拡大し、従来の銀行の枠組みを越

えた分野にも果敢に挑戦することで、皆さまのご期待に応えてまいりたいと考えています。

また、地方銀行の広域連携の枠組みである「TSUBASA アライアンス」は、2015年10月の発足以来、フィンテックやシステム・事務の共同化など幅広い分野で連携を進めることによりその成果が確実に現れてきており、より付加価値の高い金融・情報サービスのお客さまへのご提供が実現しています。本年に入ってから新たに2行が加わり、現在は9行体制となりました。今後も、地域社会の持続的な成長への貢献に向けて、戦略的アライアンスを一層加速させてまいります。

併せて、地域とともに持続的に成長していくため、ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した活動や、国際連合が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する活動にも積極的に取り組んでまいります。

第四北越フィナンシャルグループの今後の活動に是非ともご期待をいただき、従来にもましてご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

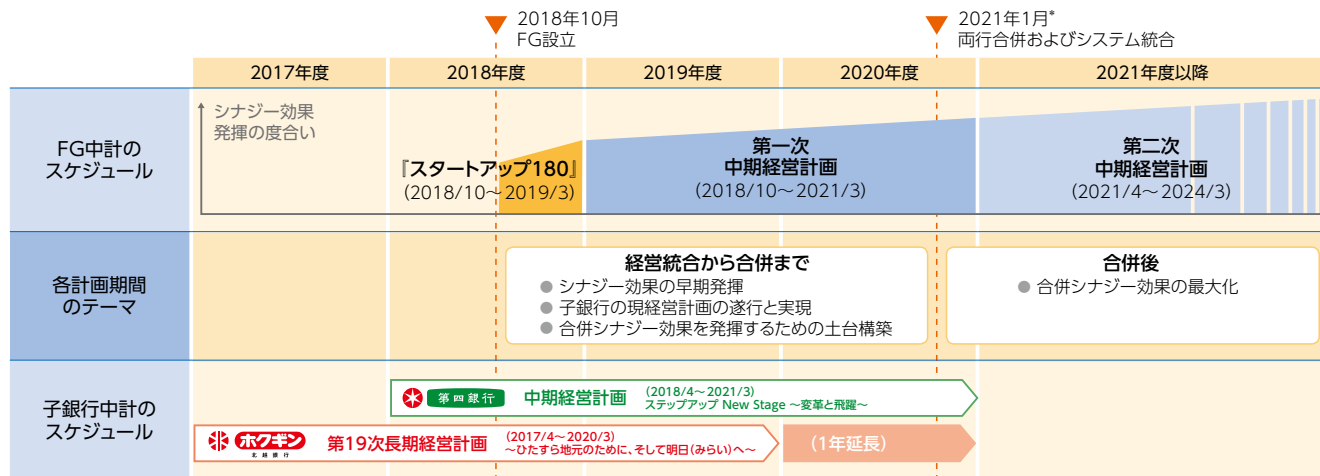
2019年5月

第四北越フィナンシャルグループ中期経営計画について

※ 以下、「第四北越フィナンシャルグループ」を「第四北越FG」または「FG」と表記する場合があります。また、「第四銀行・北越銀行」を「両行」と表記する場合があります。

第四北越FGは、**両行合併及びシステム統合を、2021年1月に実施する予定**です。

中期経営計画については、**両行が合併する2020年度までの「第一次中期経営計画」と**、合併シナジー効果の最大化を図る「第二次中期経営計画」の2段階で実行します。

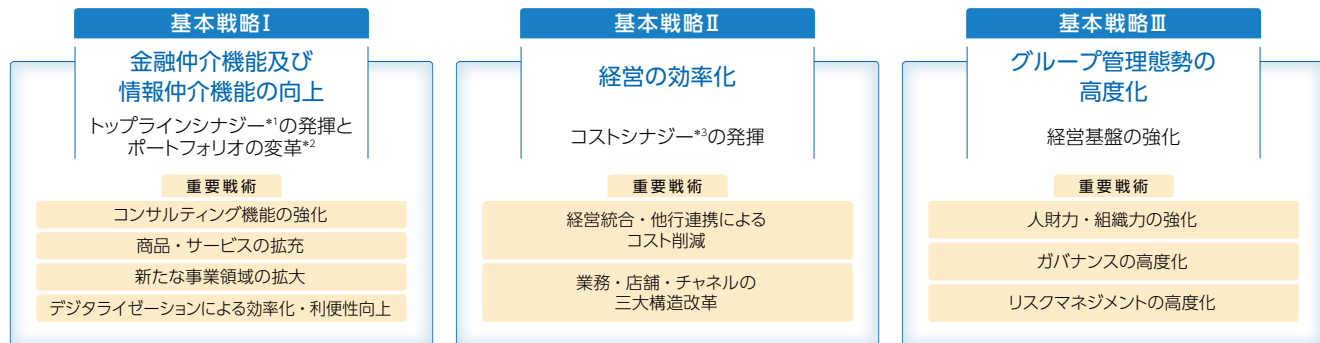


※ 両行合併およびシステム統合のスケジュールは、2019年3月時点の予定であり、変更の可能性がります

基本戦略

FGの重要経営課題である「地域経済の活性化」、「収益力の強化」及び「経営の効率化」の3点の実現に向けて、3つの基本戦略、**I「金融仲介機能及び情報仲介機能の向上」**、**II「経営の効率化」**及び**III「グループ管理態勢の高度化」**に取り組みます。

第一次中期経営計画 計画期間：2018年10月～2021年3月（2021年1月（予定）両行合併及びシステム統合）



*1. 収益を押し上げる相乗効果

*2. 保有する資産の構成を変革し、コア業務粗利益に占める「貸出金利息」と「非金利収益」の構成比率を高め、収益力を強化する取り組み

*3. 経費を低減する相乗効果

「地域への貢献」に向けた重要施策～地域商社「株式会社 ブリッジにいがた」の設立

地域貢献に向けた重要施策として、2019年4月に地域商社「株式会社 ブリッジにいがた」を設立しました。

株式会社 ブリッジにいがたでは、第四銀行および北越銀行が持つ圧倒的な量の「情報」を軸に、「つなげる」「ひろげる」「つくりだす」の3つの機能を兼ね備えた事業を展開しています。

「にいがたセールスカンパニー」として、品質の高い県内の農林水産品・工業製品、工芸品等の新たな販路の開拓や、各分野に強みを持つ大手企業等との連携による効果的なマーケティング、国内外への情報発信による観光振興支援、ICTを活用した中小企業の生産性向上支援など、新潟県経済と地域外市場との“橋”渡しの役割を担い、地域経済の発展に貢献してまいります。

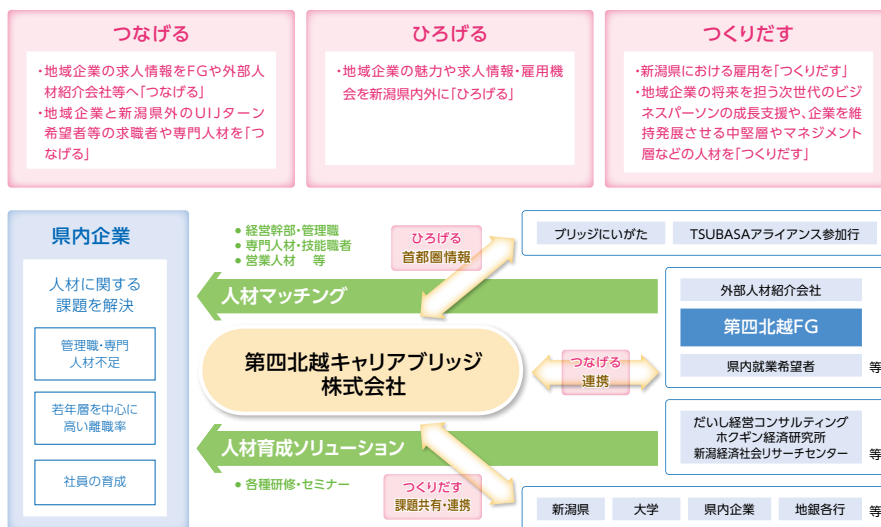


「地域への貢献」に向けた重要施策～人材紹介会社「第四北越キャリアブリッジ 株式会社」の設立

管理職や専門人材の不足、社員の育成、外国人労働者の受入など、お取引先企業の人材に関する課題解決をご支援するため、2019年5月に人材紹介会社「第四北越キャリアブリッジ 株式会社」を設立しました。

第四北越キャリアブリッジ 株式会社は、人材に関する総合コンサルティング会社として、「つなげる」「ひろげる」「つくりだす」の3つの機能により地域企業の人材に関する課題解決をご支援いたします。

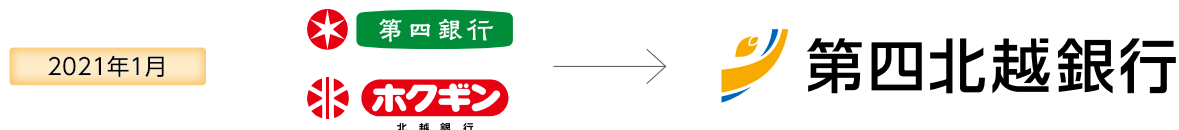
* 職業安定法に基づく厚生労働省の有料職業紹介事業の許可取得等を前提に2019年10月の事業開始を予定。



合併銀行の商号

第四銀行と北越銀行は、関係当局の許認可等が得られることを前提として、2021年1月に両行の合併を予定しています。

合併銀行の商号については、第四北越FGと同様に第四銀行および北越銀行の商号を継承することにより、両行の商号(名称)の新潟県内におけるブランド力を活かしていくため、「株式会社 第四北越銀行」とします。また、コーポレートマーク・カラーについても、第四北越FGと同様となります。



また、グループ会社である第四証券についても、2019年10月に商号を変更します。

「第四北越証券 株式会社」に変更し、コーポレートブランドを第四北越FGと統一することで、グループとしての一体感を強め、証券分野でのコンサルティング機能の強化を図るとともに、銀証連携分野におけるシナジー効果の最大化を目指していきます。



第四北越FGのコーポレートマーク・カラー

コーポレートマーク



「新潟県」の地形をモチーフとして、大地を豊饒な稲穂の実りの「**黄金色(こがねいろ)**」、その大地を潤す河川と世界へ広がる雄大な日本海をコーポレートカラーである「**紺碧色(こんぺきいろ)**」で表現しています。

マークの中の楕円形は、新潟の島々と稲穂をイメージデザイン化。

上昇する2本のラインにより、両行が1つの大きなうねりとなり、未来に向けて変化に果敢に挑戦し、地域へ貢献し続けていくことを表現しています。

コーポレートカラー



「信頼」「誠実」「未来志向」などを想起させる青系色のなかでも、濃く美しい青。

新潟県に面する雄大な日本海や豊饒な大地を潤し日本海へ注ぐ信濃川や阿賀野川に代表される河川、更には広く深く澄み渡る青空をイメージ。新しい金融グループが地域からの信頼を得ながら、未来に向けて持続的に成長していく姿を表現。

ESGへの取り組みとSDGsへの貢献

第四北越FGは、持続可能な社会の実現に向けてその社会的責任を果たすため、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する社会的課題の解決に積極的に取り組むとともに、国際連合が提唱するSDGs*(持続可能な開発目標)の達成に貢献することで、地域とともに持続的に成長していくことを目指しております。

*[SDGs]: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称。2015年9月に国連サミットにおいて採択され、国連に加盟する193カ国すべての国がその目標達成に向けた取り組みを行うことが決定している。2030年までの15年間で、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしないことを確保するための取り組みとして、17の目標と169のターゲットから構成されている。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



環境 Environment

地盤とする新潟県の豊かで美しい自然環境を守るとともに、持続可能な社会の実現に貢献していくため、環境保全に取り組むお客さまを支援し、企業市民として地域の環境保全活動や地球環境問題に積極的に取り組んでまいります。

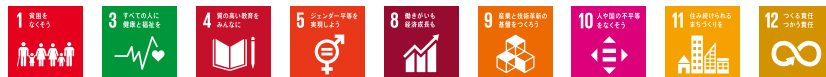
関連するSDGs



社会 Society

地域、社会の期待に応える幅広い金融サービスの提供によって地域の实体经济を支えていくとともに、地域、社会のニーズを踏まえ、多様な人材をはじめとする経営資源を活かした地域の発展に資する活動に取り組んでまいります。

関連するSDGs



ガバナンス Governance

ステークホルダーであるお客さまや地域、株主の皆さまからの高い評価と揺るぎない信頼を確立するため、財務面での健全性や収益力の向上とともに、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の重要課題と認識し、企業経営に関する監査・監督機能の充実や経営活動の透明性向上に努めてまいります。

関連するSDGs



ESGへの取り組みとSDGsへの貢献



環境 Environment

地盤とする新潟県の豊かで美しい自然環境を守るとともに、持続可能な社会の実現に貢献していくため、環境保全に取り組むお客さまを支援し、企業市民として地域の環境保全活動や地球環境問題に積極的に取り組んでまいります。

関連するSDGs



森づくり活動



第四銀行では、地域の緑豊かな森を未来へつないでいくため、森林保全活動に取り組んでいます。2009年度より活動している新潟県東蒲原郡阿賀町の「だいの森」に加え、2017年度より新潟県胎内市の荒井浜森林公園において植栽活動を開始しました。

2018年10月には、北越銀行の役職員も含め、両行の役職員とその家族総勢602名が参加し、広葉樹500本を植栽しました。

引き続き、両行役職員による地域の環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。



▲「森づくり活動」

トキの保護活動



北越銀行では、1967年より国際保護鳥である新潟県の鳥「トキ」をバンクバードに制定しています。1968年からは「トキ」の保護育成活動として「トキ愛護募金」を開始し、51年にわたり行員の募金と銀行の寄付金を合わせて新潟県に寄付をしています。

2019年5月には、第四銀行と共同で寄付金を贈呈し、2019年5月までの累計寄付金額は36,479千円となっています。



▲新潟県への寄付

「北銀まごころの会」によるボランティア活動



北越銀行では、役職員の自主参加募金組織である「北銀まごころの会」を通じて、行員によるボランティア活動への参加や、環境保護・地域福祉などへの寄付事業を行っています。

2018年度は、新潟県の絶滅危惧種である「トキ」や「ヒメサユリ」などの保護ボランティア活動に参加しました。また、2019年度からは、各地で開催されるボランティア活動に第四銀行の行員も共同で参加する予定です。



▲環境保護ボランティア活動

グリーンATM



第四銀行では、環境に配慮した商品・サービスの提供の一環として、2014年8月よりグリーンATMを設置しています。「使えば使うほど、環境へ貢献できるATM」をコンセプトに、利用1件につき20gのCO₂を新潟県内のクレジット*1でカーボン・オフセット*2する商品で、2019年3月末現在、新潟県内19カ所43台で展開しています。

2019年3月末
カーボン・オフセット実績

222t
(2014年8月以降の累計)



◀「グリーンATM」の目印

- *1 「新潟県のクレジット」とは、新潟県の森林を整備することで増加する「CO₂の吸収量」をクレジット(温室効果ガス排出削減・吸収量)として県が認証したもので、企業が排出するCO₂と相殺(オフセット)し、環境活動等への活用が可能です。
- *2 「カーボン・オフセット」とは、日常生活や経済活動において排出されるCO₂等の温室効果ガスについて、別の場所において認められたクレジットにより埋め合わせするという考え方です。

ペーパーレス化の推進



第四銀行では、環境に配慮した商品・サービスの拡充のため、個人のお客さま向けに「通帳不発行口座(愛称：グリーン口座)」を取り扱っているほか、2019年4月よりスマートフォン向け「第四銀行 通帳アプリ」の提供を開始しました。

「第四銀行 通帳アプリ」は、登録口座の残高や入金明細をスマートフォンで24時間いつでもリアルタイムで照会可能なサービスです。

「グリーン口座」「通帳アプリ」は通帳を発行しないため、記帳や繰越のお手続きが不要で、紙やCO₂の削減につながる環境にやさしい口座です。紛失・盗難の心配もないことから、多くのお客さまから新規申し込みや既存口座からのお切り替えをいただいています。

2019年3月末
グリーン口座

5,048口座

なお、第四銀行ではペーパーレス化とお客さまの利便性向上を図るため、個人ローンなどのタブレット受付を行っています(詳しくはP.10をご参照ください)。



通帳アプリ

iPhoneは
こちら



Androidは
こちら



ESGへの取り組みとSDGsへの貢献



社会 Society

地域、社会の期待に応える幅広い金融サービスの提供によって地域の实体经济を支えていくとともに、地域、社会のニーズを踏まえ、多様な人材をはじめとする経営資源を活かした地域社会の発展に資する活動に取り組んでまいります。

関連するSDGs



「にいがた創業アワード2018」の開催



両行では、お客さまの創業支援を強化していくことを目的に「にいがた創業アワード2018」を開催しました。

「にいがた創業アワード」は、地域における創業を促進するため、優れた創業のアイデア・取り組みを募集・表彰するとともに、受賞者の方々には、賞金のほか副賞として、両行による販路拡大支援や地域企業との交流支援など、創業後の成長サポートを提供するものです。



▲表彰式

2019年1月に、審査会で選定された最優秀賞1名、優秀賞3名の表彰を行いました。

両行では、今回選外となった方に対しても引き続き事業化へのサポートを行うなど、创业者の支援を幅広く継続的に行っていきます。

受賞した事業プラン

事業プラン	
【最優秀賞】	めまい診断用の超軽量眼振観察・記録システムの開発
【優秀賞】 先進技術活用モデル	子牛生産効率化にむけた肉用牛・乳用牛の受精卵生産・販売
【優秀賞】 面的地域創生モデル	「発酵の町 沼垂」の活性化にむけたビール小型醸造所 ぬったり
【優秀賞】 地域価値創造モデル	地元女性たちと作る、新潟亀田綿を使用した次世代もんぺ にいがため だじま

「にいがた 食と総合ビジネス商談会(しょくBiz!)」の開催



両行では、2019年5月に「にいがた 食と総合ビジネス商談会(しょくBiz!)」を開催しました。

新潟県内最大規模となる本商談会では、「地方創生」をテーマに、すべての業種の方々に自社商品・サービス・技術のPRと商談の機会をご提供するとともに、地方創生の実現に向けて、新潟県の魅力発信や地方創生につながる情報をご提供しました。

また、「地方創生の実現に向けて～にいがたの課題と可能性～」と題し、株式会社 スノーピーク 代表取締役社長CEOの山井太氏と株式会社 自遊人 代表取締役の岩佐十良氏によるスペシャル対談を行い、多数の来場者が聴講されました。



▲出展ブースの様子



◀「しょくBiz!」のご案内

URL : <https://www.shoku-biz.jp/>

「第3回 NIIGATAビジネスアイデアコンテスト」の開催



両行では、株式会社 新潟三越伊勢丹、東日本旅客鉄道 株式会社新潟支社との4社共同(以下、4社)で「第3回 NIIGATAビジネスアイデアコンテスト」を開催しました。

本コンテストは、事業者・学生の優れたアイデアを表彰するとともに、選考したビジネスアイデアについては、4社によるマーケティングやビジネスマッチングなどの事業化に向けたサポートを提供するものです。

2018年11月に、新潟県内大学生を対象とした学生部門において、応募総数42組の中から書類選考を突破した6組が最終選考のプレゼンテーションに挑み、厳正なる審査の結果、グランプリ・準グランプリが選ばれました。

また、2019年3月には、事業者部門として応募総数50組の中から書類選考を突破した6組が最終選考となるプレゼンテーションを行い、同じくグランプリ・準グランプリを決定しました。



▲プレゼンテーションの様子



▲表彰式(学生部門)



▲表彰式(事業者部門)

受賞したビジネスアイデア (学生部門)

ビジネスアイデア	
グランプリ	・地域連携による潟屋醸造製品のPRを目的とした6次産業ビジネスの確立
準グランプリ	・Sumbrella 新潟らしい柄×折りたたみの日傘 ・新潟発! 車麩専門カフェ系食堂

(事業者部門)

ビジネスアイデア	
グランプリ	・滅菌加工と真空パックを施したがん治療者のためのニット帽子
準グランプリ	・理想の音を求めて 越後杉で球形スピーカー製造!! ・新潟県産銀鮭の陸上養殖事業

個人ローン商品の「Web完結スキーム」の構築と、窓口受付システム「TSUBASA Smile」による申し込み受付開始



第四銀行では、2018年11月より、個人ローン商品の「Web完結」スキームならびに窓口受付システム「TSUBASA Smile」の取り扱いを開始しました。

「Web完結スキーム」は、住宅ローンを除く全ての個人ローン商品について、お申し込みからお借り入れまで、スマートフォンやパソコンなどのWeb上で手続きが完結するサービスです。本サービスの取り扱い開始により、お客さまは来店不要・契約書記入不要となるなど、銀行窓口へのご来店が難しいお客さまにも個人ローンをご利用いただきやすくなりました。

また、窓口受付システム「TSUBASA Smile」は、窓口で専用のタブレット端末をご用意し、商品選択から画面誘導により必要項目

をご入力いただくことで、お申し込み手続きが完了するシステムです。お手続きは、ペーパーレス、印鑑レスでお客さまと会話しながら進めるため、お客さまの申込手続きが大幅に簡略化されるとともに、審査結果の早期回答も実現しました。



▲窓口受付システム「TSUBASA Smile」▲

ESGへの取り組みとSDGsへの貢献

北越銀行賞



新潟県内の社会福祉に特に貢献された団体・個人の方々の活動支援を目的として、北越銀行の創業100年(1977年)を記念して制定した表彰制度です。第42回となる2018年度は新たに12の団体・個人が表彰され、これまでに444の団体・個人が受賞しています。

受賞者の皆さまからは「この受賞を励みとして更に活動を継続していきたい」、「思いがけない受賞で、大変光栄である」といった感想をいただいています。



▲「北越銀行賞」表彰式の様子

北銀奨学会による奨学金給付



北銀奨学会とは、新潟県内の高等学校を卒業し、学業優秀でありながら経済的理由により大学への就学が困難な若者に対し返還義務のない奨学援助を行い、社会有用な人材を育成することを目的とした公益財団法人で北越銀行内に事務局を設置しています。

1962年から奨学金支給を開始し、2019年4月までの累計支給者は延べ1,167名となっています。

また、2018年度の募集から、応募対象に特別支援学校を追加し、対象者の拡大を実施しました。今後も若者の就学機会の拡大を図り、地域社会に貢献していきます。



▲「北銀奨学生懇談会」の様子

新潟大学との連携を通じた学生向けカリキュラムの実施



両行では、新潟大学と連携し、同大学が実施する学生向けカリキュラムに協力し、学生の新潟県内企業に対する理解の促進を支援しています。

第四銀行では、新潟大学が中心となってすすめている地方創生推進事業の一環として、「新潟の企業の魅力を探る」をテーマとして開講したカリキュラムに参加しました。同カリキュラムを通じて、新潟地域の産業に関心を持ち、地域活性化や産業振興に積極的に関与できる人材づくりへの取り組みに積極的に協力しています。

また、北越銀行では、2019年1月に新潟大学に協力して、学生向けカリキュラム「新潟での企業理念と経営戦略」に参加しました。

同カリキュラムは、新潟県内の地域経済や産業界をアピールすることを通して、学生の県内企業認知度と県内企業への就職率向上に繋げ、若者の県外流出防止と県内定住促進を目指すものです。



◀学生向け講義の様子

「第13回 全国高校生金融経済クイズ選手権『エコノミクス甲子園』新潟大会」の開催



両行では、2018年12月に「第13回 全国高校生金融経済クイズ選手権『エコノミクス甲子園』新潟大会」を開催しました。

本大会は、新潟の未来を担う高校生に楽しみながら金融知力(世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金との関わり方を考える力)を身につけてもらうための教育イベントとして、内閣府・文部科学省・金融庁等の後援で開催しています。

新潟大会には29チームが参加し、筆記予選や早押しクイズによる熾烈な戦いが繰り広げられた末、優勝チームが全国大会への切

符を手に入れました。



▲「エコノミクス甲子園」新潟大会▲

春休み親子見学バスツアー「にいがた親子探検隊『潜入! 新聞社、銀行、発電所を探れ!』」の開催



両行では、東北電力 株式会社 新潟支店、株式会社 新潟日報社と共同で、2019年3月に、春休み親子見学バスツアー「にいがた親子探検隊『潜入! 新聞社、銀行、発電所を探れ!』」を開催しました。

このバスツアーは、銀行、新聞社、電力会社によるコラボレーション企画として、各企業の裏側に潜入し、新聞を印刷する輪転機や、銀行の大金庫の中の1億円、火力発電所のタービン建屋内など、普段は見ることができない場所を見学し、次世代を担う子供たちの見聞を広げることを目的としています。

当日は、20組43名の親子にご参加いただき、各見学場所では多

くの質問が出るなど、有意義な時間を過ごしていただきました。



▲「東北電力東新潟火力発電所」見学

▲「おもしろしんぶん館」見学

「子育て・教育・人づくり応援私募債」の取り組み開始



両行では、2018年11月に、地域活性化を応援する寄付型私募債である「子育て・教育・人づくり応援私募債」の取り組みを開始し、2019年3月末までに両行で178件、159億円の私募債を受託しました。

この私募債は、新潟県内の各自治体の「子育て・教育・人づくり」を支援したい企業さまを資金面でサポートするとともに、発行企業さまよりいただく手数料の一部を利用して、企業さまが希望する新潟県内の市町村へ金銭寄付を行う商品です。

両行では、この取り組みを通じて「産・官・金」が連携し、新潟県内の人口減少や少子高齢化への対応、教育環境の充実に向けた取り組みをサポートしていきます。



▲「子育て・教育・人づくり応援私募債」のご案内チラシ

ESGへの取り組みとSDGsへの貢献

「震災時元本免除特約付き融資」の取り扱い



第四銀行では、地域の企業さまに対して、大規模地震発生時の事業継続・復旧対策のご支援を目的として「震災時元本免除特約付き融資」を2018年4月に新設し、多くの企業さまからご利用をいただいています。



▲「震災時元本免除特約付き融資」新聞広告

この商品の主な特徴は次のとおりです。

- あらかじめ定めた震度観測点において、震度6強以上の大規模地震が発生した場合に、直接被害、間接被害の有無を問わず、あらかじめ定めた割合(100%または50%)で、ご融資の借入元本が免除されます。
- ご融資の借入元本が免除されることにより、大規模地震発生時の財務面でのダメージの補填が可能となるほか、新たな資金調達余力が生じることにより、企業さまの事業継続・復旧対策をサポートします。

TSUBASAアライアンス参加行による「ダイバーシティミッション」の実施



両行は、2019年2月に、TSUBASAアライアンス*参加行と連携して、参加行の女性活躍推進に向けた研修会「ダイバーシティミッション」を実施しました。

本研修会では、女性参加者のダイバーシティ（多様な人材を積極的に活用する考え）に対する意識向上を図るとともに、先進企業の視察やグループワークを通じて参加者同士の人的ネットワーク形成を図ることを目的として実施しました。

当日は、公益財団法人21世紀職業財団から講師を迎え、キャリアアップの重要性やダイバーシティ推進の効果について講話をいただきました。

また、参加者はグループワーク等を通じて、自社が抱えるダイバーシティの阻害要因などを情報交換し、ダイバーシティに対する意識向上を図りました。



◀「ダイバーシティミッション」の様子

- * TSUBASAアライアンス
地域の持続的な成長や金融システムの高度化、参加行グループの企業価値の増大などに寄与する施策の立案・推進を目的とした地銀広域連携の枠組み。第四銀行、北越銀行、千葉銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、武蔵野銀行、滋賀銀行が参加しています。参加行は、共同出資会社の設立や、顧客の相互紹介、シンジケートローンの共同組成など、幅広い分野で連携しています。



▲「TSUBASAアライアンス」ロゴマーク

女性行員による国内企業視察研修



北越銀行では、2018年10月に、女性行員17名が福井県鯖江市を訪問し、国内企業視察研修を実施しました。

本研修は、女性経営者との交流を通じて企業経営や組織運営のやりがいなどを学ぶことにより、行内における女性の活躍を推進することを目的としており、めがね製造会社を創業した女性経営者の苦労話や、旅館女将によるリーダーシップやマネジメントに関

する話を聴講しました。

参加した行員からは「視野が広がり、学ばべき点が多い研修であった」との感想がありました。



▲「女性行員による国内企業視察研修」の様子

「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」の認定



第四銀行は、2019年2月に、経済産業省および日本健康会議が実施する「健康経営優良法人認定制度」において、2年連続で「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」に認定されました。

同制度は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え戦略的に取り組む「健康経営」について、優良な取り組みを実践する企業を顕彰する制度です。

第四銀行では、従業員の心身の健康保持・増進が地域に貢献する人財の基盤であると考え、疾病予防の機会拡充やメンタルヘルスケアの強化に取り組んできており、2018年11月には「健康経営宣言」を制定するなど、健康経営に向けて組織全体で取り組みを強化しています。

これからも、従業員が安心して働き、能力を最大限発揮できる環境づくりを目指していきます。



▲「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」認定証



▲「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」ロゴマーク

「ライフアップコンサート」の開催



第四銀行では、地域の音楽・芸術文化の振興を目的として、良質な音楽や古典芸能などを低料金でご提供する「だいしライフアップコンサート」を継続して開催しています。2018年度は、多数のコンクールで受賞歴をもち、欧州ヴァイオリン音楽の系譜を体現した名手として、世界各地で演奏活動しているノエ・乾氏によるヴァイオリンリサイタルを開催したほか、北越銀行との共催により、古典落語を得意とし古典芸能の分野で数々の賞を受賞している落語家の古今亭菊之丞氏による落語会を開催しました。

2019年度からは、「だいしほくえつ ライフアップコンサート」として、7月に黒田亜樹氏、アルド・カンパニャーリ氏、フランチェスコ・ディロン氏で構成する「クロダ・カンパニャーリ・ディロン三

重奏団」によるクラシックコンサートを予定しているほか、2020年3月には落語家 三遊亭兼好氏による落語会を開催する予定です。

開催スケジュールなどは、随時、両行のホームページでお知らせしています。



▲ノエ・乾氏



▲古今亭菊之丞氏

ESGへの取り組みとSDGsへの貢献



ガバナンス Governance

ステークホルダーであるお客さまや地域、株主の皆さまからの高い評価と揺るぎない信頼を確立するため、財務面での健全性や収益力の向上とともに、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の重要課題と認識し、企業経営に関する監査・監督機能の充実や経営活動の透明性向上に努めてまいります。

関連するSDGs →

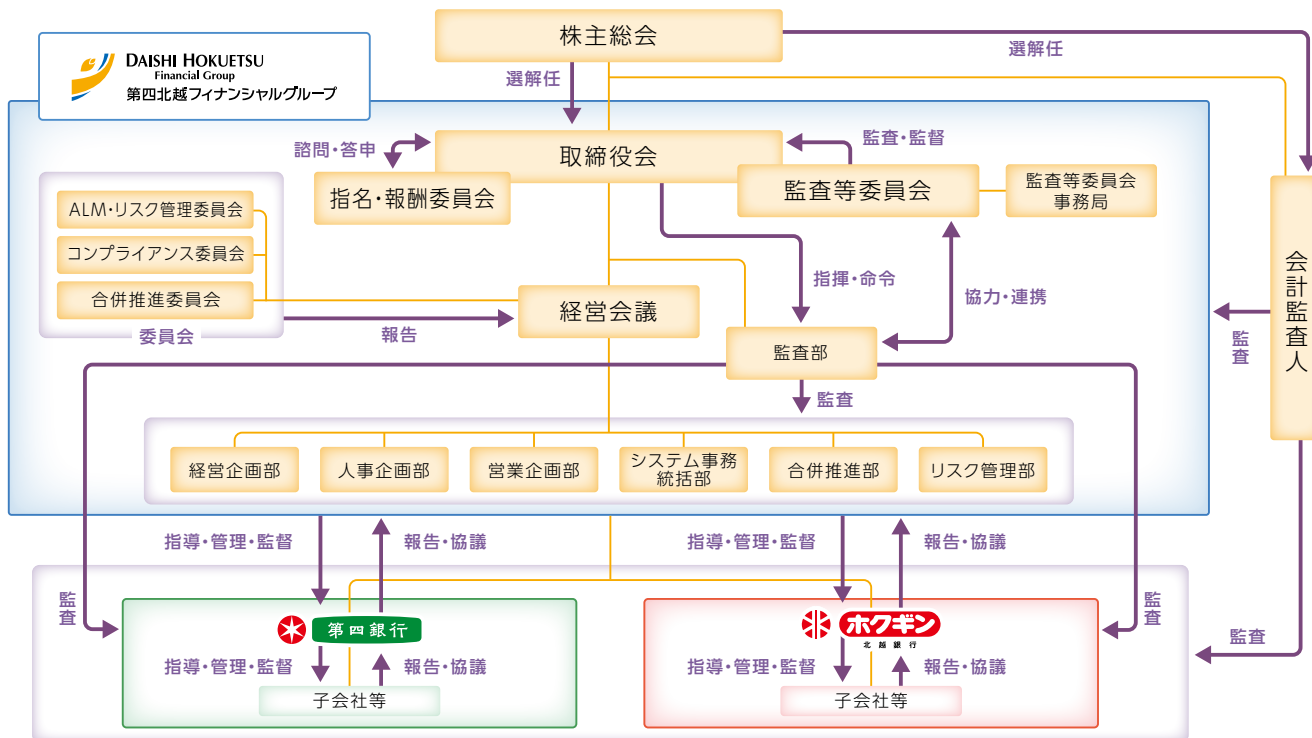


第四北越フィナンシャルグループの「コーポレートガバナンス・ガイドライン」「コーポレートガバナンスに関する報告書」をホームページに掲載しています。

→ URL : <https://www.dhfg.co.jp/esg/governance/>



コーポレートガバナンス体制図



指名・報酬委員会の設置

第四北越FG

第四北越FGは、2019年2月に、コーポレートガバナンスの高度化を図るため、取締役会の任意の諮問機関として「指名・報酬委員会」を設置しました。

「指名・報酬委員会」は、取締役会の諮問機関として、取締役の

選解任や報酬に関する重要な事項の検討にあたり、社外取締役の適切な関与や助言を得る機会を確保し、公正性・透明性・客観性を強化することで、コーポレートガバナンスの高度化を図ることを目的としています。

マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関する基本方針の策定

第四北越FG 第四銀行 ホクギン 北越銀行

第四北越FGおよび両行では、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与の防止に向けて、「マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関する基本方針」を策定しました。

金融機関はお客さまとの取引について、法令等*に基づきそのリスクに応じたマネー・ローンダリング防止措置を講じることが求められています。当社グループでは、本基本方針の策定によりマネー・ローンダリング及びテロ資金供与に関する運営方針や管理態勢などを明確にし、グループ一体となった組織的な対策を実践していきます。

* 「犯罪による収益の移転防止に関する法律」「マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン(金融庁策定)」等



▲第四北越FGホームページの「基本方針」ページ画面

第四北越FG マネー・ローンダリング



新潟県金融機関サイバーセキュリティ情報連絡会

第四銀行 ホクギン 北越銀行

両行では、サイバーセキュリティ強化を図るため「新潟県金融機関サイバーセキュリティ情報連絡会」に参加しています。この情報連絡会は、第四銀行システム部が事務局となり、新潟県内に本店を有する29金融機関および一般社団法人新潟県銀行協会、新潟県信用金庫協会、新潟県信用組合協会、新潟証券業組合が会員として参加しているほか、新潟県警察本部がオブザーバーとして参加しています。

2019年2月に開催した第2回の情報連絡会では、「不正送金手口の最新事例」や「最新のサイバー情報」などについての講演やサイバーセキュリティ演習を行ったほか、新潟県の金融インフラを担

う金融機関相互の情報交換を実施しました。

今後も、新潟県内の金融機関と連携し、サイバーセキュリティ強化を図るとともに、お客さまへの安心・安全なサービスの提供に努めていきます。



▲講演の様子



▲情報交換の様子

第四北越フィナンシャルグループ

損益の状況

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

● 第四北越フィナンシャルグループ連結

(単位：百万円)

科 目	2019年3月期
経常収益	118,007
経常利益	16,706
親会社株主に帰属する当期純利益	56,844
連結自己資本比率	9.54 %

- ・設立初年度である2019年3月期の連結決算は、第四銀行の年間の連結損益に、北越銀行の経営統合以降の連結損益を合算して算出しています。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益には、企業結合による「負ののれん発生益」472億円を含んでいます。

● 2行単体合算

(単位：百万円)

科 目	2019年3月期	前年同期比	2018年3月期
経常収益	117,376	△ 4,482	121,858
業務粗利益	83,484	△ 1,622	85,106
うち資金利益	66,481	△ 4,076	70,557
経費(除く臨時処理分)	63,030	△ 859	63,889
コア業務純益	21,122	△ 2,018	23,140
業務純益	20,398	△ 1,126	21,524
経常利益	23,570	△ 4,925	28,495
当期純利益	14,348	△ 6,302	20,650

(単位：億円)

科 目	2019年3月末	前年同期比	2018年3月末
預金等残高	74,880	757	74,123
貸出金残高	50,915	1,471	49,443
預かり資産残高	8,798	188	8,609

(注) 第四銀行・北越銀行の年間の単体損益を単純合算して算出しています。

格付

(2019年3月31日現在)

日本格付研究所(JCR)から「A+」(長期優先債務格付)を取得しています。

日本格付研究所(JCR)	
第四北越フィナンシャルグループ	A+

● 格付

企業が発行する債券(社債等)の債務履行の確実性について、公正な第三者である格付機関が評価し、その結果を簡単な記号で表したものの信用度や安全性を客観的に評価した、重要な指標の一つ



第四銀行

損益の状況

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

● 損益の状況 (単体)

(単位：百万円)

科目	2019年3月期	前年同期比	2018年3月期
経常収益	76,616	△ 1,922	78,538
業務粗利益	54,669	△ 905	55,574
うち資金利益	42,500	△ 2,278	44,778
経費(除く臨時処理分)	41,303	△ 299	41,602
コア業務純益	15,353	△ 535	15,888
業務純益	13,361	△ 610	13,971
経常利益	16,046	△ 2,612	18,658
当期純利益	10,339	△ 3,150	13,489

格付

(2019年3月31日現在)

日本格付研究所(JCR)からは「A⁺」(長期優先債務格付)を、ムーディーズ社(Moody's)からは「A2」(長期預金格付)を取得しています。

	日本格付研究所(JCR)	ムーディーズ(Moody's)
第四銀行	A ⁺	A2



ホクギン

北越銀行

損益の状況

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

● 損益の状況 (単体)

(単位：百万円)

科目	2019年3月期	前年同期比	2018年3月期
経常収益	40,760	△ 2,559	43,319
業務粗利益	28,815	△ 716	29,531
うち資金利益	23,981	△ 1,798	25,779
経費(除く臨時処理分)	21,726	△ 560	22,286
コア業務純益	5,769	△ 1,483	7,252
業務純益	7,037	△ 515	7,552
経常利益	7,524	△ 2,312	9,836
当期純利益	4,009	△ 3,152	7,161

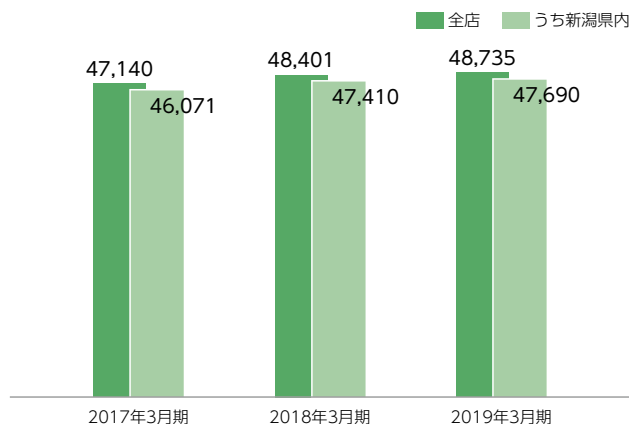
格付

(2019年3月31日現在)

日本格付研究所(JCR)から「A⁺」(長期優先債務格付)を取得しています。

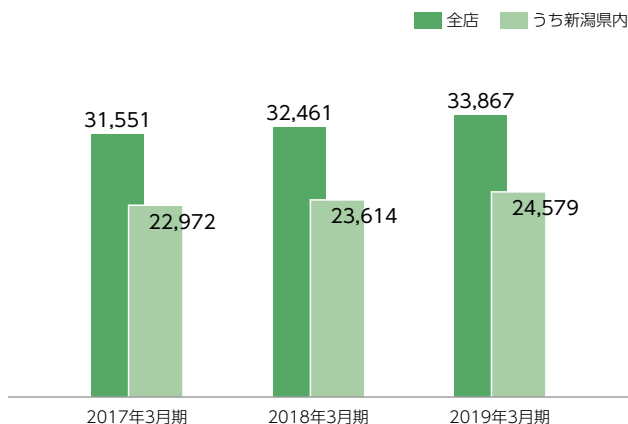
	日本格付研究所(JCR)
北越銀行	A ⁺

預金*1 (単位: 億円)

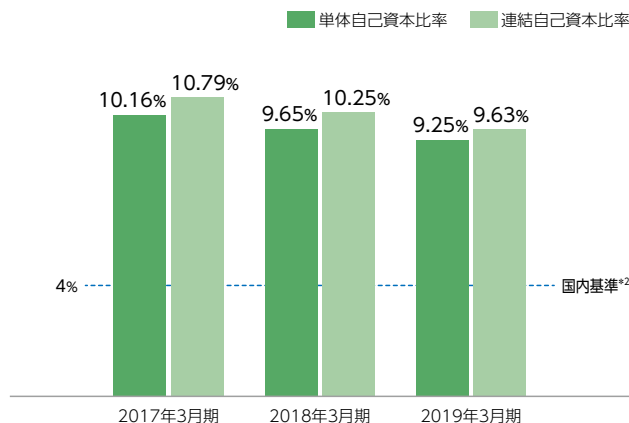


*1. 譲渡性預金を含んでいます。

貸出金 (単位: 億円)

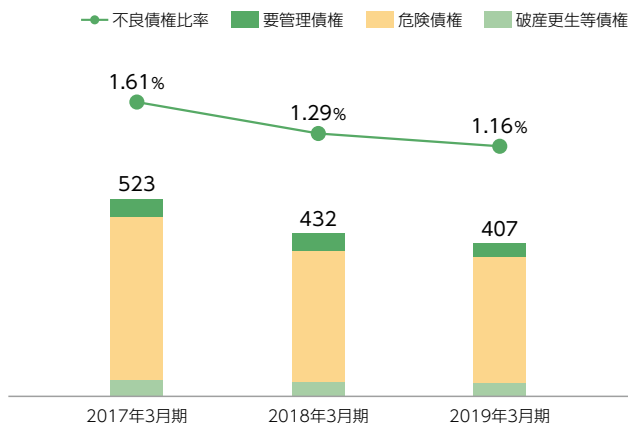


自己資本比率



*2. 国内のみで営業する銀行に対しては、4%以上の水準であることが求められています。

不良債権の状況 (単位: 億円)



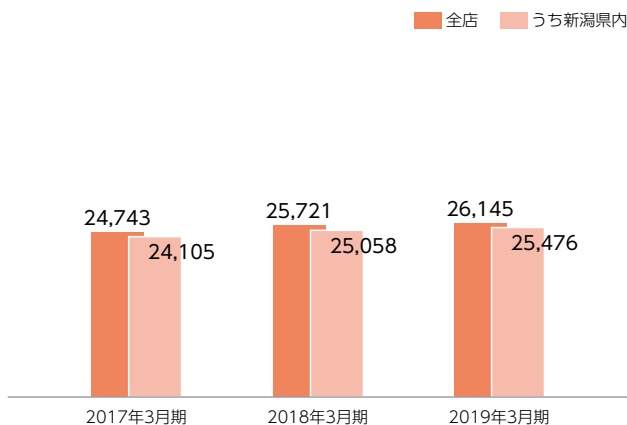
● 自己資本比率

貸出金などの資産(リスクアセット)に対する自己資本の割合で、健全性を表す重要な指標

● 要管理債権

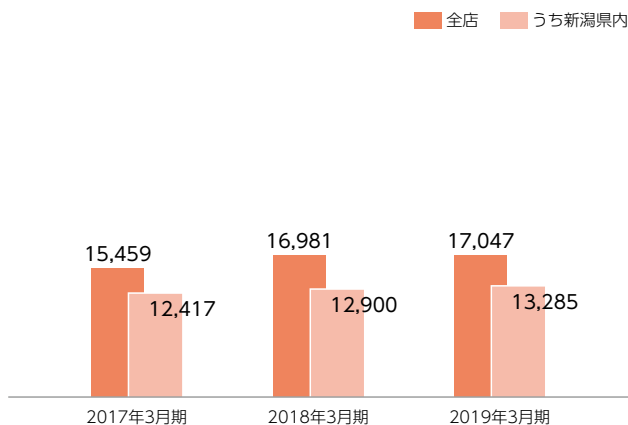
破産更生等債権や危険債権を除く、3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

預金*1 (単位：億円)

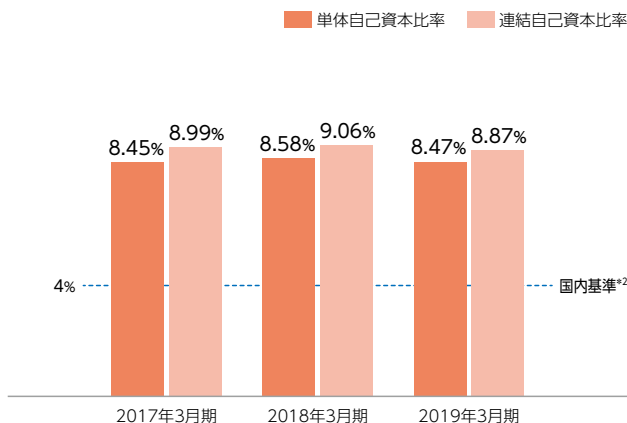


*1. 譲渡性預金を含んでいます。

貸出金 (単位：億円)

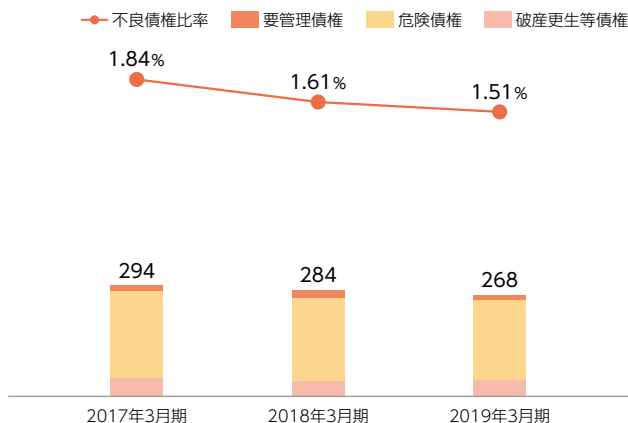


自己資本比率



*2. 国内のみで営業する銀行に対しては、4%以上の水準であることが求められています。

不良債権の状況 (単位：億円)



● 危険債権

債務者が経営破綻の状況には至っていないが、財政状態や経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本回収や利息の受け取りができない可能性の高い債権

● 破産更生等債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申し立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

第四北越フィナンシャルグループの状況・役員

役員

(2019年3月31日現在)

代表取締役会長	佐藤勝弥
代表取締役社長	並木富士雄
取締役	長谷川 聡
取締役	広川和義
取締役	渡邊 卓也
取締役	小原清文
取締役	高橋 信
取締役	殖栗道郎
取締役 (監査等委員)	河合 慎次郎
社外取締役 (監査等委員)	増田 宏一
社外取締役 (監査等委員)	福原 弘
社外取締役 (監査等委員)	小田 敏三
社外取締役 (監査等委員)	松本 和明

(注) 増田 宏一氏、福原 弘氏、小田 敏三氏、及び松本 和明氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

グループ企業の状況

(2019年3月31日現在)

会社名	主要業務内容	設立年月日	資本金
株式会社 第四銀行	銀行業務	1873年 11月2日	327 億円
株式会社 北越銀行	銀行業務	1878年 12月20日	245 億円
第四証券 株式会社	証券業務	1952年 8月8日	6億円
第四信用保証 株式会社	信用保証業務	1978年 10月27日	5,000 万円
北越信用保証 株式会社	信用保証業務	1986年 8月20日	2億1,000 万円
だいし経営コンサルティング株式会社	コンサルティング業務・ベンチャーキャピタル	1984年 6月8日	2,000 万円
株式会社 ホクギン経済研究所	経済・社会に関する調査研究、情報提供業務	1997年 7月1日	3,000 万円
第四リース 株式会社	総合リース業務	1974年 11月11日	1億円
北越リース 株式会社	総合リース業務	1982年 11月1日	1億円
第四コンピューターサービス株式会社	コンピューター関連業務	1976年 5月10日	1,500 万円
第四ジェーシービーカード株式会社	クレジットカード・信用保証業務	1982年 11月12日	3,000 万円
第四ディーシーカード株式会社	クレジットカード業務	1990年 3月1日	3,000 万円
北越カード 株式会社	クレジットカード・信用保証業務	1983年 6月1日	2,045 万円

株主の皆さまへ

株主優待制度

株主の皆さまの日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの皆さまに長期間当社株式を保有していただくことを目的に、株主優待制度を導入しております。

● 対象の株主さま

初回は、2019年3月31日現在の当社株主名簿に記載された50株以上を保有する株主さまを対象とさせていただきます。

その後につきましては、毎年3月31日を基準日とし、100株(1単元)以上の株式を継続して1年以上保有(毎年3月31日および9月30日現在の当社株主名簿に、同一株主番号で連続して3回以上記録)する株主さまを対象とさせていただきます。なお、2019年3月31日現在で50株以上100株未満の株式を保有する株主さまは、2020年3月31日までに買増し、100株以上保有していただきますと継続して株主優待制度の対象となります。

● 初回(2019年3月31日)

保有期間：2019年3月31日現在で必要株式数を保有

保有株式数	優待品の金額
50株以上1,000株未満	2,500円相当
1,000株以上	6,000円相当

● 2回目以降(2020年3月31日以降)

保有期間：1年以上継続保有

保有株式数	優待品の金額
100株以上1,000株未満	2,500円相当
1,000株以上	6,000円相当

● 株主優待制度の内容

以下の2つのカタログのいずれかより、保有株式数に応じてお好みの優待品をお選びいただけます。

- ① 地元新潟県の特産品及び公益財団法人北銀奨学会への寄付を掲載したカタログ
- ② TSUBASAアライアンス共同企画として他県の特産品を掲載したカタログ*

* TSUBASAアライアンスに参加する地方銀行4行の地元の特産品(千葉銀行：千葉県、中国銀行：岡山県、伊予銀行：愛媛県、東邦銀行：福島県)を掲載したカタログです。

● ご注意事項

- 本優待サービスは株主ご本人さまのみご利用いただけます。ご家族を含む第三者には譲渡・貸与などできませんので、あらかじめご了承ください。
- 上記優待サービスのお申込方法、ご利用方法などの詳細は、対象株主さまにお送りするカタログをご参照願います。
- 優待内容・条件等は金融環境の変化などによって、変更となる可能性があります。その際は、当社ホームページ等にて、あらかじめお知らせいたしますのでご了承ください。

株主還元方針

銀行業の公共性に鑑み、将来にわたって株主各位に報いていくために、収益基盤の強化に向けた内部留保の充実を考慮しつつ、安定的な株主還元を継続することを基本方針とします。

具体的には、配当金と自己株式取得合計の株主還元率40%を目処とします。

なお、当期純利益の増強を基本として、ROE向上に取り組んでいく方針であり、中長期的に5%以上を目指してまいります。

1株当たり配当額

2019年3月期 期末	60円
-------------	-----

株式及び株主の状況

(2019年3月31日現在)

● 資本金の状況

資本金	300億円
-----	-------

● 株式の状況

株式数	発行可能株式総数	100,000千株
	発行済株式総数	45,942千株
株主数		18,799名

● 大株主の状況(上位10先)

	株主名	持株数	持株比率
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,978 千株	6.52 %
2	明治安田生命保険 相互会社	1,624	3.55
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,434	3.14
4	日本生命保険 相互会社	1,156	2.53
5	損害保険ジャパン日本興亜 株式会社	888	1.94
6	DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	886	1.94
7	東北電力 株式会社	852	1.86
8	第四銀行職員持株会	804	1.76
9	大同生命保険 株式会社	705	1.54
10	JP MORGAN CHASE BANK 385151	673	1.47
	上位10社合計	12,004	26.29

(注)1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、自己株式を控除のうえ算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

第四北越フィナンシャルグループ からのお知らせ

 第四銀行  ホクギン **どちらのATMでも
現金のお引出しは**

 第四銀行 ATM  だいし
ホクギン
CASH CARD **ご利用手数料
全時間帯** **0円**  だいし
ホクギン
CASH CARD  北越銀行 ATM

第四北越フィナンシャルグループのホームページ

財務・IR情報や株式情報、ニュースリリースなどをホームページからご覧いただけます。

第四北越フィナンシャルグループ



<https://www.dhfg.co.jp/>



地域商社「株式会社 ブリッジにいがた」のホームページ

2019年4月1日に設立した「株式会社 ブリッジにいがた」のホームページも開設いたしました。
同社の取り組みやニュース、各種関連情報をご覧いただけます。

ブリッジにいがた



<https://www.bridge-niigata.co.jp/>

